

- 単にタンカーという名称を答えさせる問題であれば正答率は上がっていたと考えられる。言葉だけで学習が進められていないか指導法をもう一度確認する必要がある。

イ 養殖漁業の発表をしているのはだれか、4人の発表（養殖漁業，栽培漁業，底引き網漁，沖合漁業）の内容から選択する問題 <5>(2) (通過率51.5%)>

ア はなこさん イ つよしさん

出荷できる大きくなるまで、いけすで育てるそうよ。

たまごからち魚をかえして、水そうで育てて海に放流するんだよ。

ウ たろうさん エ よしこさん

一度にたくさんの魚をとるために、直径1kmぐらいの大きなあみを使うそうだよ。

10t以上の船を使って、遠くの家まで数日かかりでとりに行くそうよ。

【考えられる理由】

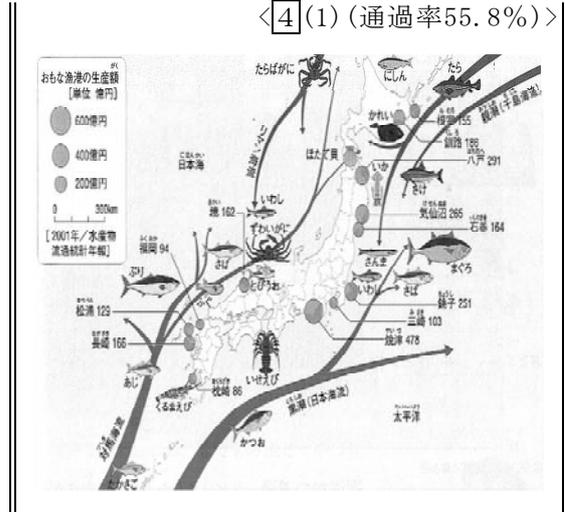
- 誤答に栽培漁業(イ つよしさん)が多いことから、養殖漁業と栽培漁業との違いが十分に理解できていない。

【改善の視点】

- 養殖漁業の「出荷できる大きくなるまでいけすで育てる」、栽培漁業の「ち魚を育てて海に放流」のキーワードを知識として定着させる。
- 鹿児島県は養殖漁業が盛んであることから、見学したり、資料を活用したりして調べることで、児童が身近な問題として興味・関心を高められるようにする。

ウ 海流の流れが示された資料から、日本海側を流れる暖流はどれかを四つの海流（リマン海流，対馬海流，日本海流，千島海流）から選択する問題

<4>(1) (通過率55.8%)>



【考えられる理由】

- 誤答に日本海流が多いことから、暖流と言えど黒潮（日本海流）というイメージで理解されている。
- 地図上で日本海側・太平洋側の区別や、流れる方向による寒流と暖流の区別が知識として定着していない。

【改善の視点】

- 日本海側の暖流と寒流，太平洋側の暖流と寒流を地図と関連付け，繰り返し確認させる。
- 各漁港における漁獲高や魚の種類などにも着目させることにより，興味・関心を高め，定着を図る。

(2) 資料活用能力育成の工夫

今回通過率の低かった知識・理解の観点を問う問題であっても、まずは資料を読み取り、既存の知識と関連付ける力が要求される。そのため、各種の基礎的資料を効果的に活用して調べたり、調べたことを基にして自分で資料を作ったりする「資料活用能力」を身に付けさせることが重要である。

今回出題された統計や写真などの資料数は、全部で24(前回22)であった。

表 出題された資料と数（今回）

資料の種類	数
写 真	9
分布図・地図	4
折れ線グラフ	4
文書資料	2
帯グラフ	2
図・イラスト	2
棒グラフ	1

これらの資料を読み取るためには、「資料のどこをどのように見ればよいか」等、資料を読み取る視点を児童にもたせることが必要である。

児童が統計や写真などの資料を読み取り、答を導き出すことができるかどうかの決め手は、やはり日ごろの授業で統計や写真などの資料をどれだけ活用し、資料活用能力を育成することを意図的・計画的に行っているかが鍵となる。

そこで日常の授業等で、児童の資料活用能力を育成するための資料の見方や考え方について、出題の多かった写真、折れ線グラフ、分布図の三つの資料を取り上げ、児童に示す具体的なポイントを挙げる。

【写真の例】写真は ③(2)の問題より

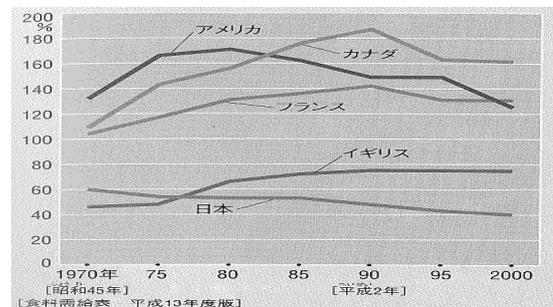


【具体的なポイントの例】

- ① 時期はいつごろか。
- ② 場所はどの辺りか。

- ③ 写真の人はだれだろう。
- ④ 何をしているのだろう。
- ⑤ 周りの様子をよく見てみよう。

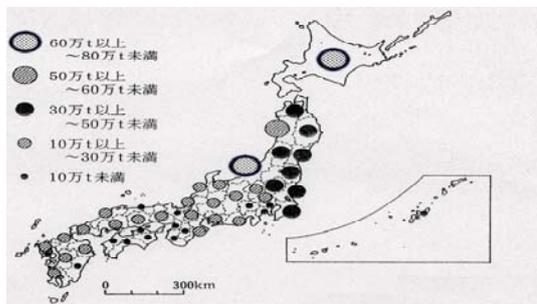
【折れ線グラフの例】グラフは ①(1)の問題



【具体的なポイントの例】

- ① 何を表しているグラフだろう。
- ② 縦軸・横軸（単位・年）は何か。
- ③ 変化や傾向（いつからいつまで増えた・減った）を見てみよう。
- ④ 比較（年ごと・種類ごと・地域ごと・国ごと）をしてみよう。

【地図・分布図の例】分布図は ②(1)の問題



【具体的なポイントの例】

- ① 地図中の記号の意味と表されているものは何だろう。
- ② どの都道府県に多い(少ない)か。
- ③ どのような場所(地域)に特に集中しているか。
- ④ その場所(地域)に多い(少ない)のはなぜだろう。

このように、授業で資料等を活用する際は、まず、資料の見方や考え方のポイント

を明らかにすることが大切である。

次に、気付いたこと(「〇〇は～に多い」, 「〇〇なのは～だから」, 「〇〇は～のところに多いが, △△は…のところに多い」など)を発表させたい。発表を通して考えをまとめさせることにより, 児童の資料活用能力や定着度を更に高めることができる。

(3) 知識の定着を図り, 理解を深める学習指導の工夫

社会科の学習では, 都道府県の名称や位置, 生産調整や海流などの語句や意味について, 知識として定着を図るとともに, それを理解して使えるようにさせることが大切である。

そのためには, 具体的に以下のような学習指導の工夫が考えられる。

ア 基本的な用語等については, 反復練習し, 話したり書いたりするなどの知識の定着を図る時間を授業の中に設定する。

例えば, 授業の中に必ず定着を図る時間を設定し, 「栽培漁業」等の基本的用語について「ち魚」や「放流」などの関連するキーワードを繰り返しドリルや発問などで確認させることにより, 児童の知識の確実な定着を図る。

イ 分布や位置を白地図にまとめさせ, 全体の様子をとらえさせる。

例えば, 児童に都道府県ごとの米や畜産の生産量, 漁港の水揚げ量, 周辺の海流などを調べさせ, 上位の場所やその位置を白地図等にまとめさせる作業を通し, その特徴等について理解を深めさせる。

ウ 地図等を教室環境に取り入れ, 日常的に活用することにより意識化を図る。

例えば, 地図や地球儀を教室に常設し, 朝の会の話や発表, 総合的な学習の時間などで地域や日本各地の話題を取り入れるなど, 日常的に地図等を活用し指導に生かせるよう心掛ける。

エ 実生活との関連付けを図り, 社会科に対する興味・関心を高める。

平成15年度小学校教育課程実施状況調査(国立教育政策研究所)によると, 社会科が好きな児童ほど問題の通過率は高いことが分析されており, 社会科への興味・関心を高め, 社会科好きの児童の育成を図ることは基礎・基本の定着を図る上からも重要である。そのためには, 例えば, テレビや新聞などで話題になっていることに触れたり, 児童が好きな調査や見学を授業の中に取り入れたりするなど, 今学んでいることと実生活との関連付けを図ることが大切である。

各学校においては, 今回の結果で明らかになった本県の全体的傾向と自校の実態との比較等を通して, 基礎・基本の定着状況を把握し, 資料活用能力の育成や知識の確実な定着を図るなど, 学習指導の一層の工夫・改善を進めることが求められる。

(教科教育研修課)